

歯科の診療に座った患者の女性(89)が、血圧計をつけた。「ふんばは二三〇ぐらい」という上の血圧は、一六〇近くまで上がった。

この数値を見た神奈川歯科大麻酔科教授(歯科医師)の吉田和志さんが「緊張していらっしゃるね。血圧が落ち着いてから治療を始めますから、ゆっくりしていただき」と、優しく声をかける。

神奈川県藤沢市にある市北休日歯科診療所。市歯科医師会が昨年十月、毎週木曜日と日曜日の午前、高齢者の専門外来を始めた。会員の十五人の担当チームが三人ずつ交代で治療に当たるほか、麻酔を専門とする神奈川歯科大と東京医科歯科大の歯科医師が加わる。患者の体調をチェックするためだ。

さながら外科手術
この専門外来が受け持っているのは、高齢や持病のため、普通の歯科開業医で

安全な歯科治療のために

□ □ 3 □ □



血圧などを測るモニターを見ながら歯科治療中の患者の状態を調べる吉田和志さん(奥)(神奈川県藤沢市)

高齢者の全身状態配慮

「治療の難しい患者だ。夜は治療は欠かせない」(高橋民夫会長)という。治療は外科手術と同じように、血圧計や心電図計、問診票も持っているもの、呼吸の状態をみる動脈血酸の、「歯を抜いたり削った素顔程度の測定装置を装着する」ため、診療所での治療し、安全を確認しながら行

う。「緊張や麻酔注射のわずかな刺激でも、血圧は急激に上がるため、注意が必須です」と吉田さんは言う。救急用具備え付け

高齢者は様々な薬を飲むとも考える。診療室には、万が一のたすかな刺激でも、血圧は急激に上がるため、注意が必須です」と吉田さんは言う。用具も備えてある。吉田さんは「高齢化が進み、歯の治療にも、全身の病気のことを考慮しなければならぬ」と話す。

高齢者は様々な薬を飲んでいて、多い。心臓病の予防に血を固まりにくくする薬を日ごろ飲んでいて、患者の場合、抜歯のような出血が予想される治療の前には、内科の主治医と相談し、一時的に服薬を休むこ

から実施されてきたのが、難病や心身障害者の歯科治療だ。診察中じっとしてられない、恐怖感が強く治療できないといった場合、鎮静剤や全身麻酔を使って治療する。血圧、呼吸状態などの監視は不可欠だ。

鎮静剤や麻酔を使った歯科治療患者に過度の恐怖心がある場合、治療中の不安や緊張を軽減する目的で行う。低濃度の笑気ガスを吸入する方法、精神安定剤を点滴する方法、両者を併用する方法がある。それでも困難な場合、全身麻酔が行われる。

歯科麻酔の認定医である埼玉県総合リハビリテーションセンター歯科診療部長の三浦雅明さんは「治療の内容や所要時間に応じ、体に負担の少ない鎮静方法を工夫するのがポイント」と話す。歯だけを診ていたので、安全な歯科治療はできない。